

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 海外連携等推進事業補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 岐阜県立森林文化アカデミー 総務課 電話番号：0575-35-2525

E-mail：c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,170千円 (前年度予算額：585千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	585	0	0	0	0	0	0	0	585
要求額	1,170	0	0	0	0	0	0	0	1,170
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

ドイツにおける林業技術者の養成で優れた取り組みを行っているロッテンブルグ林業大学と平成26年11月10日に連携覚書を締結した。その覚書に基づき教育ノウハウの取得や、学生相互交流を覚書締結から5か年にわたり行っていたが、令和元年に再締結を行い、引き続き5年間継続して連携を行うこととなった。

(2) 事業内容

新たに更新した連携覚書において、ロッテンブルグ林業大学と「教育訓練を目的とした学生の相互研修及び交換留学」を新たに明記しており、重要なプロジェクトの林業・森林環境教育・木造建築・野生動物管理の4つのプロジェクトに本学の学生を派遣する。

なお、令和2年度も派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため、海外との渡航は不可能となったため、令和2年度に行く予定だった学生も含める。(派遣学生 5人×2年分、派遣期間10日間)

なお、ロッテンブルグ林業大学からも、本学へ学生が派遣される。

(3) 県負担・補助率の考え方

森林文化アカデミー運営に関わることのため、県において全額負担することが妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金補助 及び交付金	1,170	ドイツ・ロッテンブルグ林業単科大学プロジェクトに参加する学生に対する補助金 @117,000 円×5 名×2 年分
合計	1,170	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

ロッテンブルグ林業大学との連携覚書期間は令和6年度までの5年間。ただし、ドイツ林業は常に日本の先を行くため、連携の必要性を判断し、5年以降も覚書期間更新可能としている。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

補助事業名	学生海外派遣事業費
補助事業者（団体）	学生 （理由）ロッテンブルク林業大学との連携の一環として当学学生をロッテンブルク大学のサマーセミナー等へ派遣しているが参加経費のうち渡航経費が高額となるため補助する。
補助事業の概要	（目的）レベルの高い林業技術者を養成するため、森林管理・木材利用の最新の知識と経験を実地で学ぶ機会を与える。 （内容）ロッテンブルク林業大学が日本の大学生等対象に企画運営するサマーセミナー等に参加を希望する当学学生の渡航・滞在経費の一部を補助する。
補助率等	定額 定率・その他（例：人件費相当額） （内容）渡航・滞在費経費の1/2相当分を補助 （理由）渡航・滞在経費を算出した上で県内教育機関の先例等と比較し決定。
補助効果	ドイツ主要産業の一部であるドイツ林業の生の姿をサマーセミナー等を通じて直接学ぶことで、アカデミー卒業生に期待される創造的で提案のできる新たな働き方や地域とのつながりの創造等ができるキーパーソンとして、世界的な視野をもった人材の育成を行う。
終期の設定	終期令和6年度 （理由）ロッテンブルク林業大学との連携覚書締結期間の5年間

（事業目標）

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>意欲ある学生はサマーセミナー等に参加しドイツ林業を学ぶことが当然と考えるような林業知識・技術の最先端事例を学ぶ土壌が醸成されるとともに、教育レベルの向上、排出技術者レベルの向上を図る。</p>
--

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (年度末)	目標 (年度末)	目標 (終期)
① 協定に基づく学生交流であり、その達成度を数値的な指標で表すのは困難	/	/	/

	年度	年度	年度	年度	年度 (要求)
補助金交付実績	千円	千円	千円	(予算額) 千円	(要求額) 千円
指標①目標					
指標①実績				(推計値)	(推計値)
指標①達成率	%	%	%	(推計値) %	(推計値) %

(前年度の成果)

・事業開始前の27年度はサマーセミナー参加者0人（希望者は3人あったが経済的理由で全員参加を断念）であったが、平成28年度は3名、平成29年度はサマーセミナー1名、環境教育研修5名、30年度はサマーセミナー3名、獣害対策2名、木造建築2名、令和元年度はサマーセミナー5名、環境教育1名が参加した。令和2年度は不実施。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項
当該補助額が、サマーセミナー等参加負担額に対し十分な負担軽減となりうるのかどうかの実証。

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）
○：必要性が高い、△：必要性が低い

(評価) ○ ドイツ・ロッテンブルク林業大学との連携覚書期間中に、その実となる学生交流実績を確実に作り、今後の有能な林業技術者教育につなげる必要がある。

・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）
○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている
△：まだ期待どおりの成果が得られていない

(評価) ○ 令和元年度は学生6人の参加であった。より多く学生が先進的なドイツ林業に直接触れることで、広い見識を有する技術者育成につながる。

・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）
○：効率化は図られている、△：向上の余地がある

(評価) ○ サマーセミナー等に参加した学生が報告会を行い、他の学生と情報共有するとともに、次年度以降のサマーセミナー等に自ら参加し学びたい学生の志気向上が図られる。

(事業の見直し検討)

ロッテンブルク林業大学との連携覚書締結期間（5年間）終期となる令和6年度までは継続する。

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

令和7年度以降のロッテンブルク林業大学との連携継続を検討する中で当該事業の実施についても検討を行う。